

# 就労支援の人材育成－ 「Rehab.C塾」の取り組み

松為 信雄

一般社団法人職業リハビリテーション・カウンセリング協会 代表理事

(神奈川県立保健福祉大学・東京通信大学 名誉教授)

**1.問題の所在**

**2.「Rehab.-C.塾」の活動**

**3.今後の課題**

# 問題の所在

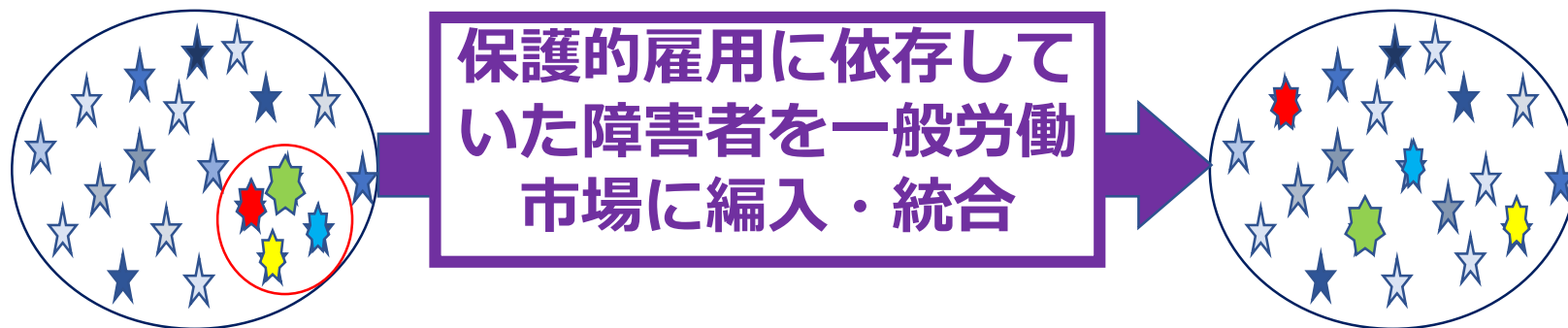
## 1. 開かれた労働市場

2. 支援人材の育成と確保
3. 知識と技術の体系

# 開かれた労働市場

開かれた労働市場への展開が求められている

→ インクルージョン・ダイバーシティの展開



## Integration（統合）

少数派が多数派の状況に合うように、少数派に働きかけ

## Inclusion(インクルージョン)

- ・ 障害の有無を問わず、公平な社会参加に向けて 制度や仕組み・環境を変える(構造や仕組みに主眼)
- ・ 統合は自動的にインクルージョンへの移行を保証するものではない

# インクルージョンを考える

個人の  
**Quality of Life,  
Well-Being**  
の向上

## インクルージョン浸透の組織や仕組み

- ・個人の尊重と良好なメンタルヘルスの維持
- ・心理的安全性の担保と働きやすさの向上
- ・働きやすさの阻害要因の減少と仕事満足感の獲得
- ・離職率の低下と作業効率の向上

## 制度改善の効果は、制度を活用する「人」の質の向上と不可分の関係！

- ・制度の効果を楽しむ「生活のしづらさを抱えた人」
- ・開かれた労働市場への移行を推進する「医療・福祉・教育・雇用分野の就労支援専門職」
- ・開かれた労働市場を展開する「雇用分野の関係者」

インクルージョンに向けた「個人」の挑戦に焦点を！

# 問題の所在

1. 開かれた労働市場

2. 支援人材の育成と確保

3. 知識と技術の体系

# 就労支援を支える人材の育成

## 今後の障害者雇用施策の充実強化について (労政審,2022.6)

1. 雇用の質の向上に向けた事業主の責務の明確化
2. 雇用施策と福祉施策の更なる連携強化
  - アセスメントの強化
  - 障害者就労を支える人材の育成・確保等
3. 多様な障害者の就労ニーズを踏まえた働き方の推進
4. 障害者雇用の質の向上の推進
5. その他

# 分野横断的な基礎的研修



## 基礎的研修で付与すべき内容

- ・ 障害者雇用・福祉の理念や倫理
- ・ 雇用と福祉間の移行
- ・ 企業の実態
- ・ 就労支援全体の体系とプロセスの理解
- ・ 就職後の雇用管理・定着支援の知識とスキル

「職業リハビリテーションカウンセリング体系」を基盤としたカリキュラム構成が必要！



# 問題の所在

1. 開かれた労働市場
2. 支援人材の育成と確保
3. 知識と技術の体系

# リハビリテーションカウンセリングの定義

- リハビリテーションカウンセリングは、職業リハビリテーション活動の基礎となる知識と技術の体系
- 職業リハビリテーションカウンセリングは、有限の資源の下で、働くことを基軸とした社会参加を通して「Quality of Life」と「Well-Being」を追求しながら、人類の持続可能な社会の構築に向けた統合的システムの構築を目指す設計科学

「障害のある人の社会的な参加、中でも職業的な場面への参加を進めるために、環境条件に個人を適応させたり、個人と仕事の双方のニーズを調整するような支援をする専門的活動」 (Szymanski, 1985)

# リハビリテーションカウンセリングの特徴

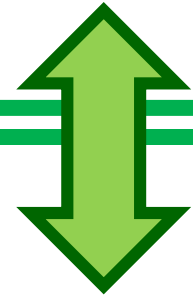
- 対象となる個人は「障害のある人を含めた“生活のしづらさ”を抱えた人」
- 個別的な展望や職業及び自立生活の目標を、統合化された場で達成するために、知識と技術を体系化した支援の過程
- 中核となる概念は「キャリア支援」
- 学問的な基盤を「人間発達学」に依拠
- 支援の対象は、「個人とそれを取り巻く種々の環境」
- 支援の仕方は、「役割を介して双方の流通性の強化」

# 職業リハビリテーションカウンセリングの体系

## 理論的基盤

- ・働くことの意味
- ・職業リハビリテーションに関わる概念
- ・職業リハビリテーションの定義と支援のあり方
- ・キャリアに関する理論
- ・カウンセリングに関する理論

認識科学  
としての  
理論基盤



## 個別支援の実際

- ・アセスメントと支援計画
- ・個人特性の理解
- ・障害の影響の理解
- ・職業と生活の理解
- ・自己理解・肯定感・障害開示・家族
- ・能力開発とキャリア教育
- ・体系的カウンセリング

## 雇用環境調整の実際

- ・雇用・福祉施策と連携の強化
- ・障害者雇用の推進
- ・人事労務管理と職場定着支援
- ・職場のメンタルヘルスと復職支援
- ・組織内キャリア・復職・離転職・引退

## ネットワークと人材

- ・支援ネットワーク
- ・専門職人材の育成と倫理

設計科学  
としての  
技術基盤

# 「Rehab.-C.塾」の活動

## 1. 塾の目的と方法

2. 活動状況

3. 成果

# Rehab.C.塾

リハビリテーション・カウンセリング塾

<https://rehab-c.org/>



高度な就労支援人材の育成に向けた

・リカレント教育：学び直し

・アンラーニング：学びほぐし

の場の提供

# 塾の目指すこと

- 生活のしづらさを抱えた人が、働くことを踏まえた社会生活を維持してQOL(生活の質)を高めてWell-Being(満たされた状態)となるような支援を担える人材の育成
- 医療・保健・福祉・教育・雇用の異なる分野を超えて、キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリングの切れ目のない支援を担える人材の育成
- 全国の同志との連携やパートナーシップの育成
- 職業リハビリテーションカウンセリングの知識と技術の体系化

# 講座の内容

## 全13回の講座

「キャリア支援に基づいた職業リハビリテーション  
カウンセリング—理論と実際—」全19章

### 第Ⅰ部 基礎理論とネットワーク編(第1～5回)

働くことに焦点を当てたキャリア支援を推進する、職業リハビリテーションカウンセリングの基礎的な知識や理論の学習

### 第Ⅱ部 「個別支援編」 (第6～9回)

職業リハビリテーションカウンセリングを推進するための個別支援の実践、に関わる知識と技術の体系の学習

### 第Ⅲ部 雇用環境調整編 (第10～13回)

職業リハビリテーションカウンセリングを推進するための雇用環境調整の実践、に関わる知識と技術の体系の学習



# 講座の進め方

毎回の講座は次の通りに進めます

## 1. 事前購読

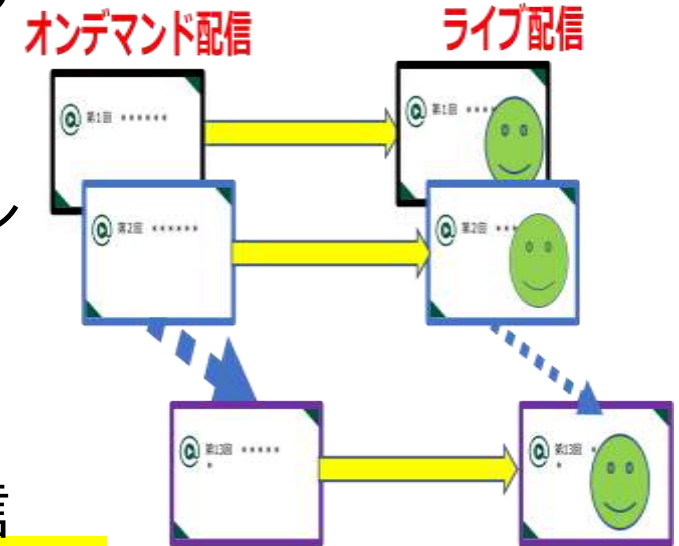
「職業リハビリテーションカウンセリング」の該当箇所の予習

## 2. オンデマンド配信

- ・ パワポ資料の講義 V T R の配信
- ・ 講義は基本的に20分×4講座で構成
- ・ 配信期間は、ライブ配信の前日まで1か月間

## 3. ライブ配信

- ・ ZOOMによるオンラインゼミ（隔週）
- ・ オンデマンド配信内容の確認(20分)とディスカッション（40分）



# 修了後の自己イメージの目標

- 職業リハビリテーションカウンセリングの知識と技術の全体的な体系が習得されている
- これまで実践してきた職業リハビリテーション支援について、系統的に知識と技術を整理できる
- 障害のある人を含む生活のしづらさを抱えている人の、雇用と職場定着に向けた支援を具体的にイメージできる
- 同期生や先輩後輩との強力な連携とネットワークができる

# 「Rehab.-C.塾」の活動

1. 塾の目的と方法

2. 活動状況

3. 成果

# 塾(修了)生の属性-1

## 0期 (全過程：修了)

- ・ 精神科医療機関(デイケア)、障害福祉サービス(移行/A型)事業所、ハローワーク、JEED、企業人事労務部、職場適応援助者養成機関、親の会
- ・ 障害者職業カウンセラー、精神保健福祉士、キャリアコンサルタント、職場適応援助者、臨床心理士、作業療法士
- ・ 障害者の雇用就労支援を10年から40年以上従事

## 1期 (第Ⅲ部：継続中)

- ・ 企業人事労務部、JEED、地域相談支援センター、障害福祉サービス(移行・A型)事業所
- ・ 地域活動家、障害者職業カウンセラー、JEED職員、職業生活相談員、地域生活相談員

# 塾(修了)生の属性-2

## 2期 (第I部：修了)

- ・ 障害福祉サービス(移行・A型)事業所、大学・大学院、精神科医療機関(デイケア)
- ・ 職業生活相談員、サービス管理責任者、職場適応援助者、作業療法士、公認心理士、精神保健福祉士

## 3期 (第I部：継続中)

- ・ 企業人事労務部、就労支援センター
- ・ 精神保健福祉士、社会福祉士、職場適応援助者、社会保険労務士、中小企業診断士、就労支援員、キャリアコンサルタント

## 4期 (募集中)

<https://rehab-c.org/>

# 「Rehab.-C.塾」の活動

1. 塾の目的と方法

2. 活動状況

3. 成果

# 研修の成果-1

## 修了生の振り返り

- ・ 職業リハやカウンセリングの理論と技術を体系的に学ぶことができた
- ・ 一見困難だと思ふ対象者でも、働くことを含む自分らしいキャリアを築くための支援の道筋が見え始めた
- ・ 専門職としての自分の立ち位置が明確になった
- ・ 障害者雇用の現場の課題が多様化・複雑化する中であって、常に立ち返るべき羅針盤となる

# 研修の成果-2

## 受講過程での変容

- ・ 第1段階：内容を特化しない表層的な感想  
(興味深かった、勉強になった)
- ・ 第2段階：実務を振り返りながら、特定の知識や技術への関心の掘り起こし  
(特に〇〇に関心があり、質問したり、確認する)
- ・ 第3段階：自己の実際活動に対する全体的な振り返りと、修正に向けた取り組み  
(自分の実践活動について、新たな視点から見直したい)
- ・ 第4段階：職業リハビリテーションカウンセリングの体系への修正や新たな提案  
(テキスト内容に対する、改定や新たな内容の提案)



# 研修の成果-3

## 修了後の活動とネットワーク構築

- ・ 研修講師やスーパーバイズ時に、職業リハビリテーションカウンセリングの視点の導入や提言・助言
- ・ 修了生による、同窓会組織の構築と運営
- ・ 修了生による、意見交換(事例検討)会の定期的な開催と運営

# 今後の課題

# 今後の課題

## 1. 塾生の募集

- ・ 質の高いリカレント教育（あるいはアンラーニング）の提供
- ・ 医療・保健・教育・福祉・雇用等の多分野専門職のネットワーク構築方法の提供

## 2. 知識と技術の更なる体系化

- ・ 職業リハビリテーションカウンセリングの体系化に向けた持続的な作業
- ・ 刊行物の改訂の継続と、それに伴う研修プログラムの改訂